サンヨー食品

企業理念の実現に向け SDGs の取り組み加速

▲パレット輸送の実施拡大に対応した新倉庫を整備

コロナ禍のなか、加工食品業界で再評価が進んだカテゴリーの代表が即席袋麺。サンヨー食品の「サッポロ一番」シリーズも前期は 2 ケタ近く伸長した。定番の強化・育成に軸足を置いた取り組みなどにより「若年層を中心に新規ユーザーが大幅に増えた」ことが主因だが、即席袋麺に注目が集まるなか、同社では SDGs への取り組みも強化している。

同社は将来の継続的成長に向けた当面の重点課題として、国内即席麺と海外事業の強化、デジタル化の推進、財務体質の強化、そして SDGs の強化を掲げる。

SDGs に対しては「企業の永続的な成長と社会的貢献に配慮して、実現可能な領域から積極的に取り組む」とし、これまでに「燃料切り替えによる CO2 排出削減」「工場照明の LED 化による消費電力の削減」「物流効率化の推進」「包材使用量削減」「段ボールへの包材使用量の削減」「廃棄物削減」などに着手済み。

燃料切り替えによる CO2 排出削減では、本社、関西、九州の 3 工場すべての使用燃料を重油から都市ガスを含む LNG に切り替えた。これにより 2020 年度の燃料由来の CO2 排出量は、2013 年度比で約 27％削減した。今後も太陽光パネル等を使用した再生可能エネルギーの導入などによりさらなる CO2 の削減を目指す。

2020 年 3 月に終了した 3 工場照明の LED 化では消費電力を大幅に減少させた。照明由来の CO2 排出量は導入以前の 2014 年度比で約 50％減。今後、事務部門でも照明の LED 化も進めていく。

物流面では、共同配送の車両集約化など幅広く効率化を進めており、2020 年度の自社拠点間におけるトラック使用台数は 2019 年度比 8.7％減。今年 4 月には、本社工場に併設する形で、パレット輸送の実施拡大に対応した新倉庫を竣工した。納品配送にかかる積み込み作業の負荷、作業時間の削減を推進する。

包装資材の取り組みでは、袋麺「サッポロ一番」個食を対象に包材フィルムの使用量削減を進めている。麺を内包するピッチの長さを変えることなく、包材上下部分のシール幅を短縮することで、石油由来プラスチックフィルム使用量を、2020 年 7 月から今年 6 月までの 1 年間で約 9.5 トン削減した。

また、袋麺の段ボール設計を見直し、2018 年 9 月までに「サッポロ一番　みそラーメン」「同塩らーめん」について、紙量の少ない仕様への切り替えにより軽量化を図った。切り替え前と比べ「みそラーメン」は約 3%、「塩らーめん」は約 2%の軽量化を実現。省資源化による森林資源の保護に貢献する。

このほか、製造工程で生じた廃棄物の 99％を肥料・飼料として再利用することで、環境負荷の少ない循環型社会に貢献していく。

同社の企業理念は「良い味の創造」。SDGs の取り組みを着実に実施することで社会に貢献していく考えだ。